

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらくる 楽さん家 (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18世帯 (19名)	(回答者数) 16世帯 (17名)
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【小集団】 ・定員6名で職員配置も手厚い。 ・小集団だからこそ、苦手な活動にも参加できたり、家では体験できないことを体験することができる。	・クッキング、集団遊び、制作活動等週替わりの活動プログラムを設定している。 ・集団遊びは、SSTを意識した内容にしている。	・クッキングや制作活動については、子どもたちにわかりやすいような工程表を作成していく。 ・集団遊びでは、他者視点が持てたり、勝負に負けても気持ちの切り替えができるよう支援していく。
2	【構造化・視覚支援】 ・活動別のエリア分け (物理的構造化) やスケジュールの構造化、ワークシステムの導入で、見通しを持って過ごせる環境を整えている。	・個別のスケジュールを呈示し、活動内容や時間等を視覚化し、一人で確認して次の行動に移ることができるように工夫している。 ・タイムタイマーや知育時計等を活用し、活動の始まりと終わりがはっきりわかるようにし、子どもたち自身が時間を意識して行動できる環境を作っている。	・子どもたちの自主性が育つよう支援していく。子どもたちの成長に合わせて支援の量を調整していく。
3	【保護者支援】 ・保護者とのつながりを大切にしている。	・送迎時に活動時の様子 (うまくいかなかったこと、本人なりに頑張っ て取り組めていたこと) を伝えている。 ・送迎時、キーパーソンとなる保護者に直接会えなかった時は、LINEにて写真や動画を送る等して様子を伝えている。	・保護者支援として、面談等の時間を充実させ、子どもたちの発達段階について共通理解を深めていく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋数が多いが、各コーナーが狭いため、子どもの特性や体の大きさを考慮したスケジュール調整が求められる。	・構造上の物理的な狭さ。	・自立課題エリアを増設やお手伝い課題を増やす等して、活動エリアが分散するよう工夫している。
2	・保護者会等の開催により、保護者同士の交流の機会やきょうだいで同士の交流機会が確保できていない。	・保護者会の開催ができていない。	・事業所の駐車場が狭いため、別会場を借りての保護者会開催や日にちを分散させての参観日の開催を検討していく。
3	・地域とのつながりが少ない。	・駐車場の問題もあり、事業所内で地域住民を巻き込んだイベントを開催しにくい。	・ほうふ福祉まつりへのブース出展やSNS等により、発達障害への理解が深まるよう発信していく。